

●田植え作業について

田植えは活着を促進させるため、できる限り日中の最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が15℃を下回るような日は極力作業を控えましょう。

田植え時の栽植密度は70株を基本とすることで天候に左右されにくく、安定的に生育・収量を確保することが出来ます。

除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

●気温状況により、葉齢進展速度が早まる場合があります。

		代かき				移植				防除可能葉齢					効果限界葉齢					防除困難葉齢				
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		
雑草葉齢進展の目安	ノビエ							1.0葉			1.5葉			2.0葉		2.5葉			3.0葉					
	ホタルイ												1.0葉			2.0葉			30葉					
	コナギ												1.0葉				2.0葉							
	アゼナ														1.0葉									
除草剤散布体系	初期剤＋一発剤	代かきと移植・除草剤の間はできるだけ短く！				初期散布剤						一発散布剤												
	一発剤のみ	一発散布剤																						

- 除草剤散布は草が見える前に散布することが基本です。
- 気温状況により、葉齢進展速度が早まる場合があります。

各種抵抗性雑草や発生量の多い圃場では効果の高いショキニー豆つぶやピラクロン剤を使用します。

代掻き～田植え～除草剤散布までを一つの行程と考え、除草剤散布の日を設ける等、計画的に作業を行い、雑草のないきれいな圃場を目指しましょう。

もみ枯細菌病は一旦発病してしまうと薬剤による消毒方法は無く、一見大丈夫に見えても、発病箱の苗は菌に接触していますので、苗を交換するなどの対応を取りましょう。育苗期間中に異常が見られた場合は、すぐお近くの営農センターへお問い合わせをお願いします。

●農作業安全

- ・余裕を持った作業計画で『農作業事故0（ゼロ）』で繁忙期を乗り切りましょう。



引用：農水省 農作業事故防止の手引きより



No.2

農業技術情報

平成30年4月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



苗七部作、育苗管理を優先し本田作業を進めましょう 初期生育を確保するには「健苗育成」!!

高品質な米を作るためには健苗育成が欠かせません。徒長していない「ずんぐり苗」を目指しましょう。緑化期以降は温度管理を中心に気を付けましょう。

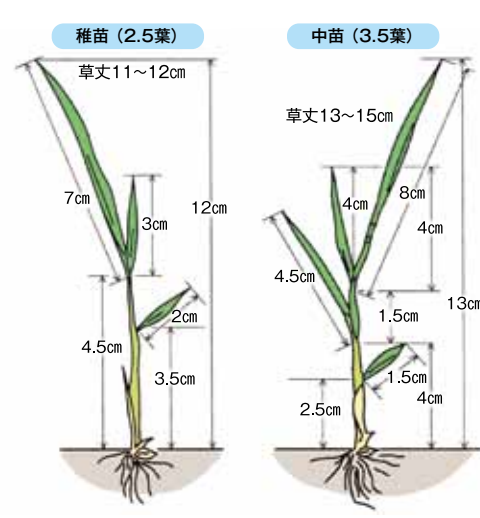
育苗目標

苗の種類	稚苗	稚・中苗	中苗
育苗期間	20～25日	30日	35～40日
葉数	2.5葉	3.0葉	3.5葉
草丈	10～13cm	13cm前後	13～15cm
必要箱数(10aあたり)	70株……19箱 60株……16箱 50株……14箱	70株……21箱 60株……18箱 50株……15箱	70株……22箱 60株……19箱 50株……16箱
播種量	乾 籾：144 g／箱 催芽籾：180 g／箱	乾 籾：120 g／箱 催芽籾：150 g／箱	乾 籾：80 g／箱 催芽籾：100 g／箱

ハウス内温度の目安

稚苗	中苗
第1葉鞘長	第1葉鞘長
3.0～3.5cm	2.5cm程度
緑化期	播種後20日間
昼：20～25℃ 夜：10～12℃	昼：20～25℃ 夜：5℃以上
硬化期	2.5葉期以降
昼：開放 夜：5℃以上	昼：開放 夜：5℃以上

苗姿の目安



●苗いもち防除

播種時にベンレート水和剤を使用しなかった場合は苗いもち病防除剤を必ず散布しましょう。苗いもち防除と箱処理剤を組み合わせるといもち病を予防しましょう。

薬品名	防除時期	使用基準	使用回数	備考	タフブロック併用
ベンレート水和剤	播種時～播種7日頃	500倍液 500ml／箱	1回	かん注	×
ビー・ム・ゾル	緑化始期	500倍液 500ml／箱	1回	かん注	○

※ベンレート水和剤の苗いもち防除時は使用回数1回までです。

●かん水は朝イチにたっぷり行いましょう

べた張り除去後は、覆土の持ち上がりを落とす程度のかん水にしましょう。また、露出した種籾があるようなら見えなくなる程度に覆土をします。

育苗期間のかん水は日の出から午前10時頃までにたっぷりとかけましょう。夕方のかん水は温度を下げるだけでなく床土が加湿になり根が酸素不足の状態となるため行いません。また、やむを得ず日中にかん水する場合はハウス内にて溜め置きした水をゆっくりとかけ、苗にストレスを与えないようにしましょう。



農機具共済

稼動前に

※点検と
※加入で

《春期》加入運動実施中！

- 1台当り2,000万円まで加入OK！
- 買い替え報告はお忘れなく。

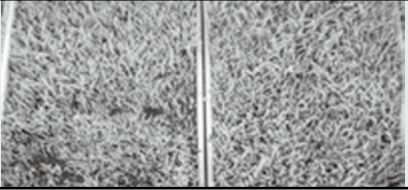
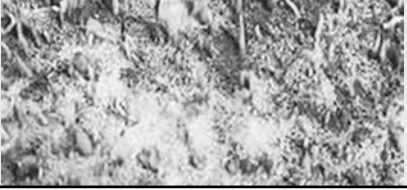
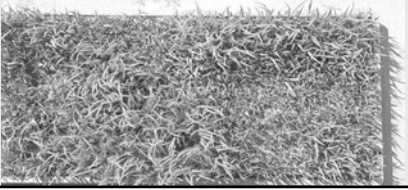
ゆとりの農作業を…



●移植前に追肥を行いましょう

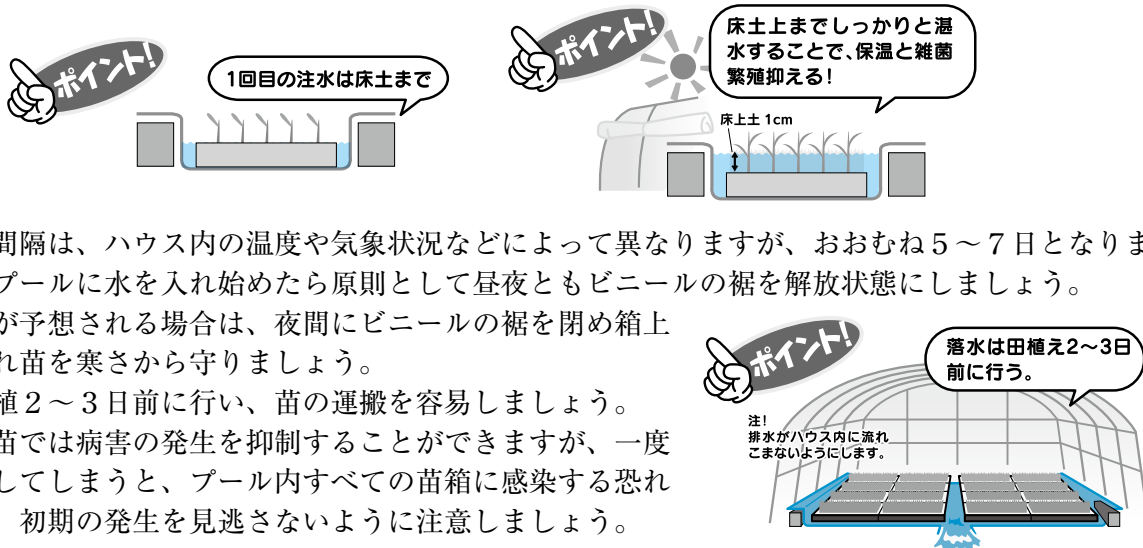
苗をよく観察して葉数や葉色に応じて追肥を行いましょう。種
籾内や床土の養分が少なくなってくると葉色が淡くなってきます。
苗が栄養不足になる前に追肥を行いましょう。
また、栄養不足で田植えをすると活着に時間がかかってしまう
ため、田植えの一週間前に弁当肥として追肥を行いましょう。

●育苗期における主な苗立枯病

病名	ピシウム菌(別名:ムレ苗)	病名	フザリウム菌
症状	出芽後、地際水浸状に褐変、急激にしおれ枯死、カビ発生無	症状	発芽直後～、根・地際部褐変、黄化枯死。地際部白又は紅色の粉状カビ
原因	温度管理と水掛方法(急激な温度差、日中の水掛)	原因	過度の乾湿、昼間30℃以上夜間10℃以下の管理
対策	タチガレエースM液剤の使用、日中の水掛はくみ置き水を使用し温度差を解消	対策	タチガレエースM液剤の使用、温度管理、肥料切れ注意
			
病名	リゾープス菌	病名	もみ枯細菌病
症状	種子層・床面に白いカビ。出芽・生育・根の発育不良	症状	新葉基部と葉鞘部が白色～淡黄色→腐敗枯死、新葉は容易に抜ける。坪枯れ症状
原因	過度の乾湿、出芽期間32℃以上の管理、育苗資材の不衛生	原因	循環催芽で発生拡大、出芽温度が32℃以上、被覆資材の二度掛け、育苗資材の不衛生
対策	育苗箱・出芽器の洗浄、施設清掃。播種時の水量と播種時ダコニール1000かダコレート水和剤の使用、出芽期間の温度	対策	育苗箱の消毒、出芽温度は32℃を超えないで、被覆期間を過剰に長くしない。出芽後の再被覆は行わない。緑化期以降は25℃以下で管理する
			

●プール育苗の注意点

プール育苗を行うことにより水管理や温度管理作業が大幅に短縮されます。また、もみ枯細菌病や苗立枯細菌病の発生を抑制することができ健苗育成に役立ちます。
プールに水を入れる時期は、本葉が1葉期となった頃です。1回目の水の深さは、育苗箱の床土の高さまでとし、苗が冠水しないように注意しましょう。2回目以降は、箱下に水のなくなる部分が現れたら入水し水の深さは育苗箱の床土から1cmまでとし、草丈の1／3以上にはしないようにしましょう。



育苗期追肥の目安 (箱当たり窒素 g)

葉 齢	稚 苗	中 苗
1.5 葉 期	1 g	—
2.0 葉 期	—	1 g
3.0 葉 期	—	1 g

育苗追肥資材例

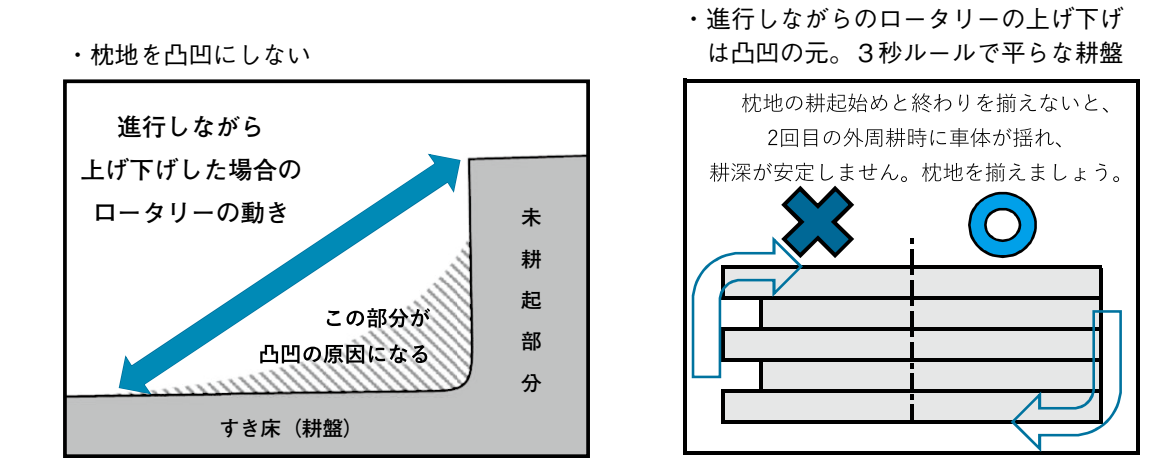
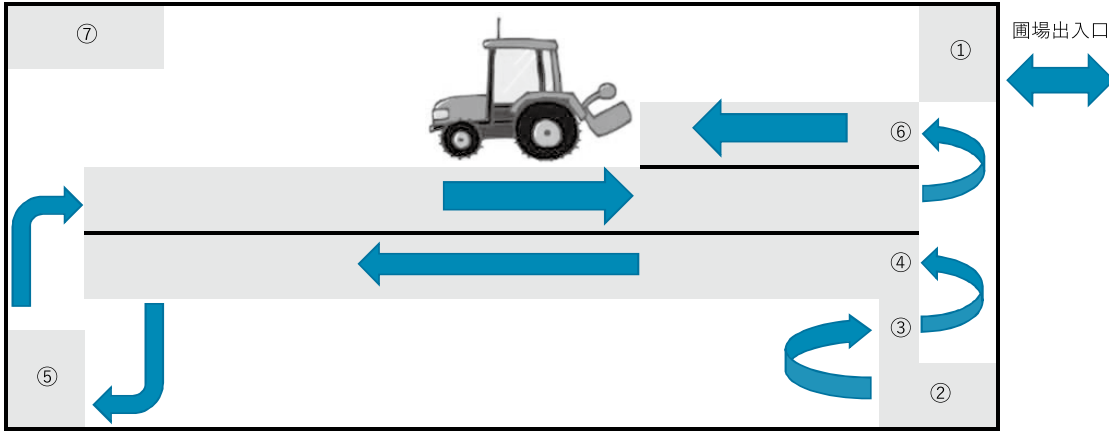
資 材 名	現物量	窒素成分	水 量
液 肥 2 号	10ml	1.0 g	1,000ml
サイコー12号	8 g	1.0 g	—

※サイコー12号は散布後にかん水を行います。

耕起作業のポイント 作土(耕深)を一定にする方法

◎耕深15cmを目標に前年ワラを作土全体に拡散!!

ワラの厚い所は耕起前に移動させ、ワラの厚さを均一にする。
①②⑤⑦の角は隅まできっちり耕起(車体長さの1.5倍を耕起)する。
③Uターンし畦畔に前輪が付いたら、停止し耕深が一定になったら(約3秒後)ロータリーを上げ⑤の角(隅)を耕し⑥から耕起を始める。
※ロータリーを上げながら・下げながらの進行や方向転換は、耕深の凹凸の一因です。



代掻作業のポイント 大きな圃場での、効率的な代掻き

利点……何度も枕地でターンしなくてよい。(深くならない)
ぬかるんだ圃場では、均平を取りやすい。
欠点……幅の狭い圃場では、作業効率が低下する。

